



根本順吉, 朝倉正 著

気候と人間シリーズ

2. 気候変化・長期予報

朝倉書店, 1980, A 5 版, 202頁,
2300円.

近来, この種のタイトルに關した本はとみに多く出版され衆目に露されている。しかし, よりこまかく, より新しく情報を集め, しかも外国の長期予報の事情や, 標記に關する文献をち密に集めた著作はそう多くはない。ましてや, ベテランの根本, 朝倉両氏が従來の仕事を集大成したものに基礎を置いて解りやすくまとめられたので非常に興味深い。以下, 目次と筆者の直感した感想を述べる。

[I] 気候変化(根本)

1. 気候変化の諸相

各地の気候要素(気温, 降水量, 氷河状況など)が図を中心によくまとめられている。

読者はここに記されている各地の気候学的位置を一つの図にプロットしてまたこの本を見直すとなお面白いであろう。

2. 外因的諸要素の変化

いわゆる気候変化の原因としての内因, 外因と称するもののうちから, 外因をとりあげ, 太陽, 火山, 海洋問題を詳しく述べている。ふつう原因を一覧表にするのが常であるが, 思い切って3大要因を挙げたのはざん新である。

3. 気候変化の現象的な整理

言葉やスケール別の現象的な整理を短かくまとめている。

4. 気候変化誌

気候変化を様々な桁別に詳述している。

5. 気候変化の原因

この項において諸原因(とくに最近問題のCO₂などを含む)を整理して述べている。その際原因と言っても諸要因が複雑にからみ合った気候なので, 同時現象というもあるため, 枚挙主義をとりあえず用いて原因を述べている。(帰納と演えきが両方補い合わないとな本当の説明は出来ないと断りつつ。)

6. 二, 三の問題点

気候予測と気候変化の影響につき著者らしいタッチで気候の複雑さと日常生活への卑近さが述べられている。

[II] 長期予報(朝倉)

1. 長期予報をとりまく環境

ベテランの筆者により, 研究面から見た長期予報の生い立ちと新しい需要(天候と経済)が適切にまとまっている。

2. 長期予報と大気現象のスケール

大気現象解明に不可欠のスケールと寿命の問題, 現象のスケールと時間平均が述べられる。

3. スケールの大きな大気現象と成因

このあたりも筆者のおはこのところで, シベリア高気圧とチベット高原, ブロッキング高気圧と異常天候, 突然昇温と長期予報, 海洋と大規模な大気環流の変動が代表的図表と共に記されている。この種の現象の積み重ねが結局長期予報技術向上につながる。

4. 長期予報の方法

最近の技術改善の結果も含めて少し専門的領域にたち入るが, わかりやすく, 予測手法がきめ細かく解説されている。

5. 長期予報の精度

このあたりも従來の本にはあまり見られなかった成績, 予報文例など丁寧に書かれている。

6. 外国の長期予報

最近入手した資料を含め興味深い外国事情が紹介されている。

なお, あとがきに, 1980年は希望の年とある。20世紀も終りとなるといわゆる世紀末的終末観が深まるのが歴史の常であるが, 一面, 長期予報のような集積効果の効く仕事は正に集大成としての希望のわくともいえる。

さらにこのような多くの要因が複雑にからみ合った現象の追求には筆者達が深く体験しかつ述べているように, 諸方法の合目的な客観化が必要である。言いかえればパーフェクトを期すのではなく(多分これは不可能!)ある目的の範囲内(の精度)で客観化は当面やってゆかねばならないので, その目的を明示しつつ一歩一歩手法を開発してゆくのが大切である。そのとき, 次第々々にたとえば内因と外因の効果も, 人間↔気候のかかわり方もわかってくるだろう。

その意味からこの本はその線に沿って最近の学問と技術の方向を手ぎわよく紹介した良い本として推薦できる。もちろん筆者達の述べているように中途半端のところも紙面の関係で仕方ないと言えるふしもあるが, 適切さにおいて是非座右に一冊置いておきたい本であろう。

(内田英治)